

保健室だより

平成27年度第26号 千葉県立千葉南高校保健室

インフルエンザ警報もでちゃったけど…

2月10日に千葉県でもインフルエンザ警報が出た。ニュースでも相当流行してるって言うよね。だけど南高は、いまだにそれほどでもない。なんでだろう。

どんなに気をつけてても通学中にうつっちゃうこともあるから、既に罹患した人だって気をつけてなかったわけではない。

みんなは感染症予防について、しっかりと考え行動してくれてるなあと思う。その証拠に、学校内の全ての手洗い場に設置してある、ビオレの減りがとても速いんだよ。ということは、みんながよく手洗いをしてくれてるってことでしょ。前にも書いたけど、何しろよく手を洗うことが、インフルにもノロちゃんにも対抗するのに一番の作戦なんだ。

保健室で使える予算のかなりの割合を、この手洗い用アワアワ石鹸が占めている。だけど、それだけお金をつぎ込んだ甲斐があるってものだね～。

まだまだ油断はできないけど、アライグマさんのようにこの調子で手を洗い続けておくれ！

ぼんちゃんの図書館へようこそ

昨年10月までの1年間、マンションの管理組合の理事を担当した。ある理事会の日、会議終了後に一冊の本を紹介させていただいた。「スプラッシュ・マンション」ていうやつ。

マンションの管理組合、理事長、管理会社のフロントさん、管理人さんたちが登場するお話だ。

しばらく経って「あの本すごく面白かったです」って言うてくださる方が複数いた。管理人さんもその一人。3回も読み直して、さらにその著者の他の本も読んだとうかがいとても嬉しくなった。「またおススメのがあったら教えて」というお言葉にのせられ、数冊見繕ってお渡しした。それから管理人さんとぼんちゃんの本のやり取りが始まった。

管理人さんは読み終わると、必ず感想文とお菓子をつけて返却してくれる。ぼんちゃんも次の本をお貸しする時は、面白くなかったら途中でやめていいんですよ、宿題じゃないんだから感想文は嬉しいけど、なくたっていいんですよとメモをつけてポストに入れる。貸し借りが負担になってしまったら悲しいからね。

この図書館が変わっているのは、相手がこの本に出会えて良かったと思ってもらえそうなものを貸す側が選ぶという点だ。ブック・コンシェルジュの間室道子さんにはいれないけど、本に癒され、また勇気をもらえる体験を多くの人に味わってもらいたいと思うぼんちゃんです。

あの本にもう一度会いたい！

と思って、以前司書さんに検索願いをしたことがある。

1冊は「みどりのゆび」。幼稚園の時に先生が読み聞かせしてくれて、そのイメージを絵に描いたのを覚えていた。

主人公が指で触ったところにお花が咲くってのが気に入っていた。40数年経ってその本を無性に読みたくなり、そして出会えた。

もう1冊は、本の名前も著者も不明。娘と一緒に読んでたフレーズを一部覚えていた。そのキーワードだけで、探していただくことができた。「ままです すきです すてきです」っていう絵本だった。

絵本はいくつになっても好きだ。本屋さんで絵本を立ち読みして、たまらず号泣したことがある。不審者だよ～（恥）